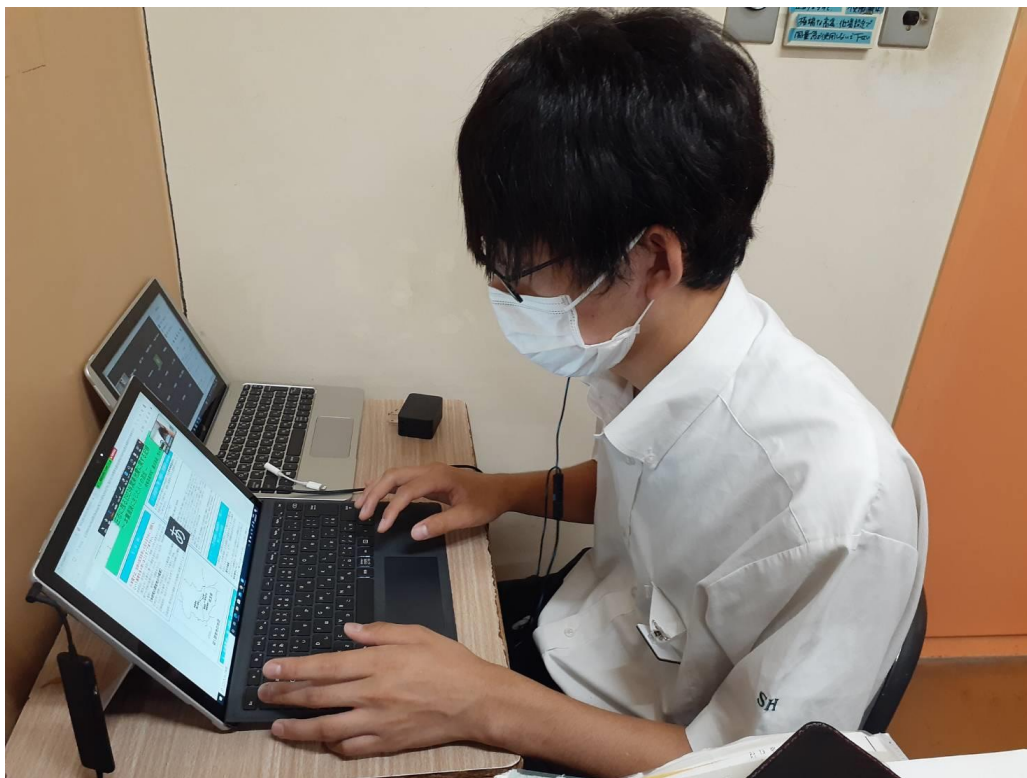


9月26日(土)～28日(月)に開催された学会(第37回歴史地震研究会オンライン伊賀大会)に、高校2年4組の篠田海遥君が参加、ポスターセッションにて発表をさせていただきました。当初、この学会は三重県伊賀市で開催される予定でしたが、新型コロナウイルスの影響によりオンラインでの開催となり、校内(物理室)からパソコンの画面上で参加をしました。

口頭セッションはZoom meetingを用いて行われました。また、ポスターセッションは、研究毎にZoom meetingの小部屋が用意され、興味を持たれた方がそれぞれの部屋に入って画面共有されたあるいは事前に学会HPに掲載されたポスターを見ながら、発表者と議論をする形式でした。ポスターセッションの時間帯には、自らも積極的に話して多くの研究者が説明を聞いて下さり、今後の研究の進展にとって貴重なアドバイスを頂き、終了時刻ぎりぎりまで有意義な議論をすることが出来ました。さらに学会へ入会をし、最年少会員として28日(月)の最終プログラムとして実施された「総会」まで出席を致しました。



ポスターセッションで研究者の方々と議論をしている篠田君

発表をさせていただいたポスターを、次ページに添付しております。

今回の学会で研究者の方々から頂いた助言も踏まえて研究を継続し、最終的には論文にまとめる目標であります。勉学と両立して頑張ってもらいたいと考えています。引き続き、皆様からのご指導をよろしくお願い致します。

埼玉県本庄市に残る1923年関東地震に関する記録

～ 本震直後に生じた人々の混乱 ～

栄東高等学校 篠田海遥・荒井賢一

§ 1.はじめに

※本稿では、当時の状況を詳しく伝えるために「**朝鮮人**」という表現を多々用いることをご了承下さい。

本研究は、県北部にて流言によって朝鮮人が多く殺害された本庄町（現本庄市）を重点に置いて調査を進めてきたが、県北部の他の地域でも同様の被害が出ていたので、3地点（本庄町、神保原町（現上里町）、寄居町）で調査を行った。

【本研究の調査地点の概要】

- ①本庄町…朝鮮人が流言飛語によって大量殺害（86名が犠牲となった）された「本庄事件（1923.9.3）」が発生した地域。
- ②神保原町…本庄のすぐ西にある町で、43名の朝鮮人が犠牲となった。
- ③寄居町…町内在住の朝鮮人が1名無残に殺害されてしまった。



図1.調査地の地図

§ 2.長峰墓地に建つ朝鮮人慰霊碑(写真は図2)

本石碑は本庄町（現本庄市東台4丁目4・4）の長峰墓地に建つ石碑であり、朝鮮人被害者に対する慰霊碑である。以下に碑文を示す。

(改行は「/」で表す)

(正面) 関東震災朝鮮人犠牲者/慰霊碑/日朝協会会長 山本熊一書
(裏面) 一九二三年関東震災に際し朝鮮人が動乱を起そうとした/との流言により東京方面から送られてきた八十六名の朝/鮮人がこの地において悲惨な最期を遂げた これを哀悼/して泰平会社演芸部と本庄新聞記者団が翌年九月鮮人之/碑をここに建立したが このたび本庄市の援助の下に日/朝両国国民有志によって新たに慰霊碑を建立することにな/つた朝鮮が独立し朝鮮民主主義人民共和国が偉大な建設/を進めつあるこの時期に慰霊碑を建立することは 痛/恨の中にも我々の喜びをする所である 我々は暗い過/去への厳粛な反省と明るい未来への希望をこめてこの碑/を建立し日朝友好と世界平和のために献身することを地/下に眠る犠牲者に誓うものである/一九五九年秋 原水爆禁止日本協議会理事長 安井郁選文

なお、記述にもあるように震災の翌年に建てられた石碑として「鮮人之碑」があるが、こちらの碑は上記の慰霊碑と建て替えられ、現在は本庄市によって保管されている（これから調査予定）。



図2. 長峰墓地に建つ慰霊碑



図3. 安盛寺に建つ慰霊碑

§ 3.安盛寺に建つ朝鮮人慰霊碑(写真は図3)

本石碑は旧本庄町の隣町の旧神保原町（現上里町神保原263-1）の安盛寺に建つ石碑であり、朝鮮人被害者に対する慰霊碑である。以下に碑文を示す。

(改行は「/」で表す)

(表面)

関東震災朝鮮人犠牲者/慰霊碑

(裏面上段)

大正十二年関東大震災に際し朝鮮人が動乱を/起したとの流言により東京方面から送られて/来た数十名の人々がこの地において悲惨な最/後を遂げた尔来二十有九年そのままに放置さ/れていたのであるがこのたび理解ある日朝両/国国民有志によって慰霊碑を建設することな/つた我々は痛恨の中にもこの碑の建立によつ/て過去の誤ちを再びくりかえすことなく今後/互にアジアの同胞として相親しみ深き反省と/自重をもつて相たずさえて永遠に平和な東/洋の建設に邁進したいこの碑がその道標とも/なり金字塔ともならんことを祈つてやまない/次第である 文學博士 柳田謙一郎選文/玉翠木村貞次書

(裏面下段)

賛助/埼玉縣/埼玉縣議會/兒玉郡町村長/同議長/同農業協同組合長/日朝有志/一九五二年四月廿日建立/發起/神保原村/賀美村/埼玉縣朝鮮人

§ 4.『大正の朝鮮人虐殺事件』に残された震災当時の記憶

この資料は、1980年北沢文武氏によって発行された震災後発生した流言飛語による朝鮮人が虐殺されてしまった事実を記したものである。以下に、特徴的な記述をまとめる。

【震災の概要】

- ・本庄市はものすごい揺れ方だったが揺れによる被害はなかった
- ・東京からの避難民は、煤だらけで疲れ切っているように見えた

【本庄事件について】

- ・2日に恐ろしい噂が本庄駅から町へ流れ、人々は混乱し暴動をおこし、朝鮮人を捕まえて誰か1人が手を下したのをきっかけに大量虐殺が起こってしまった

【具学永について】

- ・寄居町には朝鮮人参の飴を売る具学永氏が住んでいたが、流言を聞いた人々によって、何の罪もなく殺害されてしまった（図4.5）
- ・当時は警察が保護していたのだが、警察も人々の暴動を抑えきれず逃げてしまった
- ・寄居町にある正樹院（寄居町寄居864）というお寺に葬られている



図4.5. 正樹院に建つ具学永氏の墓(図4は正面、図5は左側面)

考察

- ・これらの地域は、建物の倒壊等による犠牲者は全くでなかったが、流言によって本来なら助かったはずの多くの犠牲者を出してしまった
- ・長峰墓地と安盛寺に建つ慰霊碑から、朝鮮含むアジアの国の方々と友好的であろうとする強い意志が感じられた

最後に、この事件で亡くなられた多くの方々へご冥福をお祈りします。